

第2章 基本構想

1 めざすまちの姿

■ まちづくりの基本理念

志摩市は、全域が伊勢志摩国立公園に指定され、美しく豊かな海と山の自然に恵まれた地域であるとともに、その自然環境に根差して築きあげられた文化、伝統、産業などの文化的な多様性にも富んだ地域です。私たちは、古くから自然と人が共生するなかで形作られた「志摩」のまちを受け継ぎ、自然環境と市民の暮らしが調和した、持続可能なまちづくりに努めてきました。

一方で、全国的な傾向と同様、志摩市は急速な少子高齢化と人口減少という課題に直面しており、このままでは自治体としての存続すら危ぶまれる状況となっています。また、新型コロナウイルス感染症という新たな脅威も生じ、人々の生活に大きな影響を与えています。

そのような厳しい状況の中で、志摩市が将来にわたって豊かな自然と文化の多様性を保持し、活力ある地域であり続けるためには、めまぐるしく変化する社会・経済に柔軟に適応しながら、時代に即した自然環境と共生するまちづくりをめざす必要があります。また、この「志摩」という魅力あふれる類まれなる地域に住み、心豊かな暮らしを営んでいることに私たち大人が気づき、その価値を知り、地域の宝を磨き上げていくとともに、大人が子どもたちに伝え、未来へ受け継いでいくことが必要です。

これらを踏まえ、第2次志摩市総合計画の基本構想においては、「自然と共生するまち」、「市民が誇りをもてるまち」、「次世代につながるまち」をまちづくりの基本理念とします。

<基本理念>

自然と共生するまち

市民が誇りをもてるまち

次世代につながるまち

大人がまちの魅力を引き出し、楽しみ、いきいきと暮らすこと。それは、多くの人をワクワクさせる魅力あふれるライフスタイルです。この美しい自然とともに生きる私たちの暮らし方を子どもたちが認識すれば、「志摩」に誇りを持てるようになります。そうなることで末広がりの世代交代も生まれ、持続可能なまちづくりにつながります。

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に人々の価値観に変化が生じ、自然とともに生きるこの志摩市に新たな価値が見出されるようになった今、人間らしく生きるために必要な心の豊かさを、ここ志摩市から国内外に発信し、「世界一の志摩」をつくります。

■ まちの将来像

志摩市は、古くから自然と人が共生するまちであり、まちづくりの基盤となるのは、「自然」と「人」です。このことを根幹として、まちの将来像を「住む人支え 来る人迎える 豊かな里と海のまち」として定め、将来像の実現をめざして市民・事業者・行政など、志摩市に関わるすべての人が力をあわせ、みんなが自慢したくなるまちづくりを進めます。

<将来像>

住む人支え 来る人迎える 豊かな里と海のまち

住む人支え

年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、誰もがいきいきと地域の中で働き、祭りや地域活動にも参加し、地域の中でつながっています。また、子どもを産み育てる良好な環境が整い、子どもと子育てにやさしい地域になっています。少子高齢化や人口減少等の中においても、誰もが役割を持ち、お互いが配慮し存在を認め合い、支え合うことで、安心して自分らしく暮らしています。

来る人迎える

この地域の魅力に惹かれて、国内はもちろん、海外からも多くの方が志摩市を訪れ、こうした人々を市民があたたかく迎え、新しい出会いと交流がまちに満ちています。この地域を気に入って定住する人も増えています。その中で、新しい豊かな発想やつながりが生まれ、さまざまな人たちの力が合わせられて、まちの活力が保たれています。

豊かな里と海のまち

海と山の豊かな自然と、そこから生み出された伝統・文化など、市内各地域にある一つひとつの資源を地域の宝として共有し生かすことで、地域が磨き上げられ、志摩市の魅力が高まっています。地域の資源を持続的に活用できるよう、自然環境や景観が守られ、志摩市の豊かさがより良い形で次世代へと継承する流れが構築されています。

2 まちづくりの施策方針

2.1 基本目標

まちの将来像「住む人支え 来る人迎える 豊かな里と海のまち」の実現に向け、施策体系の基本的な方針となる6つの基本目標を設定します。

目標1 自然とともに生きるまちづくり

志摩市の豊かな自然環境は、この地域の伝統・文化を形成するものであるとともに人々の生活や産業の基盤となるものです。

この素晴らしい自然環境を次世代へ継承するため、日々の暮らしの中で、自然との良好な関係を築きながら自然環境の保全に努めるとともに、伊勢志摩国立公園にふさわしい景観の保全に取り組みます。また、自然と触れ合いながら、自然と市民との暮らしのつながりについて学ぶための環境教育にも取り組みます。さらには、海洋プラスチックごみ対策も含めたごみの発生抑制と資源の循環利用推進、温室効果ガスの排出削減、森・里・川・海のつながりの確保や水環境に配慮した排水処理の推進等により、持続可能な循環共生型の社会の構築を進めます。

目標2 安全・安心なまちづくり

各種災害への備えが万全で、身の回りに危険や犯罪がない生活環境は、市民の快適な生活を支える基本となるものです。

地震津波や台風、集中豪雨などの自然災害の脅威に対し、公共施設の耐震化や河川・海岸の整備、自主防災組織の育成、市民の意識啓発など、総合的な防災・減災体制の強化に取り組みます。また、常備消防や消防団の充実・強化を図り、災害発生時の人的・物的被害の拡大を抑制します。さらに、新型コロナウイルス感染症対策を含めた危機管理体制の強化も図ります。生活や地域の変化に対応した土地利用の適正化や増加する空家等の適正な管理を行い、住環境を整えるとともに、道路や公共交通などの生活基盤の整備に取り組み、快適で安全・安心なまちづくりを進めます。

目標3 産業が元気なまちづくり

地域産業と雇用は地域の暮らしの基盤であり、産業の振興と雇用の創出は人口減少を食い止めるうえで重要な課題です。

志摩市の産業の特徴は、豊かな食材を生み出す農林水産業と美しい景観などの地域資源を活用した観光関連産業にあります。これらの地域産業を維持・強化するため、担い手育成等を図るとともに、6次産業化の推進や創業支援、企業誘致により新たな産業や雇用の創出をめざします。あわせて漁場環境の改善や獣害対策等に取り組み、持続可能な生産基盤を整備します。また、観光地としての魅力を高める環境整備や情報発信に取り組みとともに、豊かな自然環境等を生かした体験型アクティビティを推進するなど、「ナショナルパーク」としての地域ブランド力の向上を図ります。

目標4 誰もが健やかで助け合うまちづくり

誰もが安心して幸せに暮らすためには、すべての人が尊重され、地域住民としてのつながりを持ち、お互いに支えあい共に生きるまちづくりを進めることが重要です。

高齢化が急速に進行する中、健康寿命を延ばす体力づくりや予防医療を推進するとともに、医療体制や介護サービス等の充実に取り組みます。また、子どもを安心して産み育てられ、子どもが健やかに育つことのできる環境を整えます。年齢、性別、障がいの有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で自分らしくいきいきと生活できるよう、地域全体で様々な生活課題に取り組む仕組みを構築し、それぞれが思い描く幸せのかたちを尊重し合う地域社会の実現をめざします。

目標5 人と文化を育むまちづくり

市民一人ひとりがまちづくりの主役であり、教育を通して「生きる力」を身につけ豊かな感性を育むとともに、ふるさとへの愛着を抱き、まちづくりに対する興味と関心を持てるようになる環境づくりが重要です。

次世代を担う子どもたちが、健全にたくましく成長し、自然や伝統・文化を愛し、ふるさとを誇ることができるよう、地域の特性を伝える“志摩ならではの”の教育や、学校と地域、各家庭が一体となった教育を実践します。加えて、社会や生活の様式が大きく変化する中、情報を活用する能力、物事の中から問題を発見する能力、他の人たちと協働して課題を解決する能力を培う教育を推進します。また、生涯学習講座やスポーツに親しむ機会の充実を図り、子どもから高齢者まで生涯にわたり生きがいを持って暮らせるまちづくりを進めます。さらに、地域の伝統・文化の再発見と再評価を行い、保存や活用に取り組み、次世代への継承を進めます。

目標6 市民のために市民と築くまちづくり

少子高齢化と人口減少が進行し、市税収入の減少と社会保障費の増大が予想される中、今後、持続的かつ効率的な運営となるよう行財政改革が必要となります。

限られた行政の経営資源の中で、まず、歳出削減や新たな歳入の確保など財政基盤の強化を図ります。さらに多様化・高度化する市民のニーズにより柔軟に対応できるよう市職員の資質向上と意識向上に努め、伸びやかに能力を発揮できる場をつくります。あわせてAI（人工知能）やRPA（ロボットによる自動化）等の新たなテクノロジーの導入・利活用による業務効率化を進めるとともに市民サービスの向上を図ります。市民が各地域の特性を生かして主体的に地域の発展を担っていけるような体制づくりに努め、市民・事業者・行政が連携した市民のためのまちづくりを進めます。

2.2 重点目標

将来にわたって持続可能なまちづくりを進めるため、施策横断的に取り組む必要のある次の5つを重点目標として設定します。

(1) 人口減少、少子・超高齢社会への対応

志摩市では、全国的な傾向と同様、少子高齢化と人口減少が進み、生産年齢人口の減少による地域活力の低下や地域コミュニティの弱体化など地域への影響が大きくなることが懸念されるとともに、税収の減少と社会保障費の増大など市の財政状況にも影響を及ぼすことが懸念されます。

今後は、人口減少を少しでも抑制し、克服していくことが求められます。特に若者世代が定住できる環境づくりが重要になると考えられるため、仕事・結婚・出産・子育て等の若者の希望が叶う地域づくりに取り組みます。また、長寿化が進む中、「人生100年時代」の到来も見据え、いくつになっても元気で暮らせる地域づくりを推進し、市民が相互に助け合って各世代・各地域の課題に取り組み、安心して暮らすことのできるまちづくりを進めます。

(2) 環境・経済・社会の三側面の連携による価値創出

2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けて、全世界の関係者が行動する必要がある中、2018年に政府から「SDGs未来都市」として選定された志摩市においては、SDGsの理念を踏まえた積極的な取り組みが求められます。

志摩市では、従前から「新しい里海」の恵みを市民が生かすまちづくりを進めてきましたが、それをよりいっそう発展させるべく、SDGsの理念に沿った、環境・経済・社会の三側面の連携による価値創出をめざします。豊かな自然環境を保全し、御食国としての歴史を持つ持続可能な食材を生み出す農林水産業と観光関連産業など多様な主体の連携を進め、地域の経済循環を生み出すことで、豊かさを享受しながら住み続けることができるまちづくりを進めます。

(3) 災害に負けない強靱な地域づくり

志摩市では、近い将来に南海トラフ地震の発生が危惧されていることのほか、近年台風等に伴う大雨による被害が甚大化する傾向も加え、大規模自然災害のリスクが高まっています。これらの災害から市民の生命や財産を守り、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、事前防災及び減災、その他迅速な復旧・復興等に資する大規模自然災害等に備えた強靱なまちづくりが求められます。

そのために、「自助」・「共助」・「公助」を適切に組み合わせ、市民、地域コミュニティ、行政が適切に連携及び役割分担して取り組み、災害に負けない準備がしっかり整ったまちづくりを進めます。

(4) ニューノーマル（新たな日常）への適応

ウィズコロナ／アフターコロナの社会においては、感染症克服と経済活性化の両立の視点を取り入れ、新型コロナウイルスの感染拡大により生じた世の中の考え方・行動の変化、いわゆる「ニューノーマル（新たな日常）」に適応した戦略が必要です。

都市部における過密回避の流れを受けて、志摩市の強みである豊かな自然環境を生かした誘客に取り組み、都市から地方への回帰を進めることで、関係人口の創出及び移住促進を図ります。また、生活上の様々な分野におけるデジタル化など、新たなテクノロジーを活用する Society5.0（超スマート社会）のまちづくりに取り組むことで、地方でも快適に住み続けることができるまちづくりを進めます。

(5) 市民による持続可能なまちづくりの推進

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、都会よりも地方に価値があると考えられる人が増加し、自然と人が共生するこの志摩市にも新たな価値が見出され、その魅力に多くの人が惹き付けられています。

市民一人ひとりが、価値観の変化から生じたこのチャンスに気づき、地域の宝を磨き上げていくことで、多くの人をワクワクさせる魅力あふれる場所にすることができます。そして、魅力あふれる場所には人が集まり、人が集まれば豊かな発想が生まれ、さらに地域が磨き上げられることで、それが市民の輝きにつながります。このような循環を生み出せるよう、市民の取組を支え応援することで、持続可能なまちづくりを担う人材の育成につなげます。

Column (コラム) ①

SDGs (エス・ディ・ジーズ) の達成に向けて

SDGs は、平成 27 (2015) 年 9 月に国連で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ (行動計画)」に記載された、国際的な取組目標である「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」の略です。

持続可能な世界を創出するために、2030 年までに全ての国や地域で取り組むべき 17 の目標とそれを達成するための 169 の具体的な取組内容、取組の成果を計るための 232 の指標で構成されています。

政府は、SDGs の達成に向け、全国の地方自治体及びその地域で活動するステークホルダーによる積極的な取組の推進が不可欠であるとし、各地方自治体に対し、各種計画等に SDGs の要素を最大限反映することを奨励しており、SDGs 未来都市として持続可能なまちづくりを進める志摩市においても、SDGs に掲げられている 17 の目標について、総合計画の中で施策と関連付け、取組を進めます。

SDGs17 の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



目標 1 貧困をなくそう

目標 2 飢餓をゼロに

目標 3 すべての人に健康と福祉を

目標 4 質の高い教育をみんなに

目標 5 ジェンダー平等を実現しよう

目標 6 安全な水とトイレを世界中に

目標 7 エネルギーをみんなに

そしてクリーンに

目標 8 働きがいも経済成長も

目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう

目標 10 人や国の不平等をなくそう

目標 11 住み続けられるまちづくりを

目標 12 つくる責任 つかう責任

目標 13 気候変動に具体的な対策を

目標 14 海の豊かさを守ろう

目標 15 陸の豊かさも守ろう

目標 16 平和と公正をすべての人に

目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう